

チョコ募金 2018 のスタート

鎌田 實 (JIM-NET 代表理事)

今年もチョコ募金の季節がやってきました。

JIM-NET は福島支援として、「保養」「見える化」「健診」の事業を今も支援しております。イラク小児がん支援としては、医薬品や医療機器の支援を行っています。難民支援として、シリアからヨルダンに脱出した難民の、特に負傷者に対して、リハビリの支援、女性障害者の社会参加の支援や、医療アクセス支援なども行ってきました。

2017 年 1 月からイラクのアルビルで始めた JIM-NET ハウスが、徐々に病気を抱える難民の人たちに知れ渡って、利用者が多くなってきました。難民の人たちがアルビルに出てきて、子どもがアルビルの病院で治療を受けているとき、家族が寝泊まりすることができたり、外出や外泊を許可された子どもが家族とひととき一緒に過ごせるように、JIM-NET ハウスをつくってきました。さらに充実した JIM-NET ハウスを 2018 年にはつくる予定であります。

イラクでは「イスラム国」(IS) が支配していたモスルを奪還

しました。これからはモスルの医療整備などでも支援をする必要が出てくると思います。たくさんの方々の支援が必要です。

今回は、歌手の神野美伽さんが、2010 年のチョコ募金の絵を描いてくれたサブリーンの絵を使って、ご自分の着物や帯をつくってくれました。コンサートでそれを着てくれるようです。11 月 22 日にあるチョコ募金キックオフイベントでも、神野美伽さんがボランティアでミニコンサートをしてくださることになりました。徐々に支援の輪が広がっています。

今年もチョコ募金のチョコを 16 万個用意します。ぜひたくさんの方にご協力をお願いします。そして、口コミや SNS などを通して、さらにたくさんの方々にチョコ募金を広めていただければ、ありがたいです。

心から、お力添えに感謝をしています。



2017 年 12 月 1 日 (金) 電話受付開始 03-6908-8473 受付時間 10:00 ~ 16:00

ホームページ / FAX / 郵送は 11 月 15 日 (水) 受付開始 URL <http://jim-net.org> FAX 03-6908-8474



NEWS

チョコ募金 2018 のスタート……鎌田 實 (JIM-NET 代表理事) P1

佐藤真紀事務局長にきく 2018 ポップアートなチョコの作り方……佐藤真紀 (IM-NET 事務局長) P2

10 歳のがん……SUSU (2018 チョコ缶イラスト作者) P3

JIM-NET は、こんな支援活動をしています / チョコ募金 2018 イベントカレンダー……P4





佐藤真紀事務局長にきく

2018 ポップアートなチョコの作り方

♡今回のテーマは？

Happy です。

ファレル・ウィリアムスの「Happy」という曲があって、プロモーションビデオでは、いろんな人が曲に合わせて踊るのをつなげています。素人が踊るのが面白い。いろんな国でパロディを作って投稿していて、JIM-NET で 2014 年に働いていた佐藤麻衣子さんがダラシャ克蘭難民キャンプで作ってくれたビデオへのアクセスは、77,000 件もあります。

SUSU（スース）の絵を見ていると、ファレルの「Happy」が聞こえてきて絵が踊りだすんですね。がんで闘病中なのに、こんな Happy な絵が描けるってすごい。

♡ SUSU の絵

SUSU はバスラの女の子です。2008 年に 10 歳で卵巣がんを患って入院してきました。SUSU の本名はサブリーン・アブドルザハラ。2009 年に亡くなったサブリーン・ハフェドと区別するために SUSU と僕たちは呼んでいます。

SUSU は、サブリーン（当時 14 歳）に初めて会った時、「この病院には、サブリーンという名前の子は 2 人いるの。私とあなた。でも、私はもうすぐいなくなるの」と言われたそうです。

ハウラ（2012 年のチョコ缶になった）とか、アヤ・ハイサム（2013 年の「あしたのチョコ」のカードになった）は、ともかく絵をたくさん描いていました。たくさん描けることは、実はとても大事なことです。なぜかという、僕にとって彼らは、一緒に作品を作ってくれるパートナーだから。ローカルスタッフのイブラヒムがたくさん持ってくる絵から、サブリーンの絵を探していたんですが、サブリーンと名前が書いてあるけど、画風が全く違うんですね。

SUSU は、アニメ・キャラのような絵を描いていました。チョコの缶にデザインするのは、僕としては難しかったけど、気になって、2013 年には、彼女の家を訪問したこともありました。バスラの貧困地域に住んでいました。その当時は、ちょうど思春期だったのでしょうか。絵を描いてと言っても「フン」っていう感じでした。でも翌日には、絵をたくさん病院に届けてくれた。

8 年経って、どうしても SUSU に絵を描いてほしくなった。

イブラヒムに頼んで SUSU をアルビルに連れてきてもらいました。SUSU は、学校にもほとんど行かずに、ふさぎ込んだまま 19 歳になっていました。イブラヒムも連れてくるのは難しいと言っていて、SUSU が「条件として、お母さんと、院内学級のマナール先生も一緒にききたいやだ」と言っていると言うんです。それなら容易いということで、4 月に来てもらった。再会して、大きくなってたんでびっくりしましたが、最初はやはり人見知りをしていました。ソーシャルワーカー向けのセミナーで彼女のストーリーや絵を紹介したり、ナナカリ病院を訪問したりして、何か感じてくれたみたいです。昨年絵を描いてくれたローリンとも仲良



ソーシャルワーカーのセミナーで、体験談を語る SUSU（左）。SUSU の絵をデザインしたサッカーイベント T シャツを披露。2017 年 4 月アルビルにて。

しになった。2、3 日いて帰るときには、とても明るくなったし、協力的になっていました。そして、JIM-NET の仕事をしたいと言ってくれたんです。

今は、バスラの病院でマナール先生とイブラヒムを手伝っています。彼女にチャンスを作ることができたとしたら、僕たちにとってもものすごくハッピーなんです。

♡ テーマについて

3 年間「いのちの花」をテーマにデザインしてきました。最初の年は、4 人のうち 2 人が亡くなってしまい、2 年目は、「物語のあるチョコレート」と副題をつけて、ハッピーエンドで終る架空の映画を作ろうという感じ。たとえば、あらすじは、『2014 年、クルディスタンでは、隣に「イスラム国」(IS) ができ、人々は、恐怖を感じながら暮らしている。4 人のティーンの女の子がクルド、シリア、ヤジディ、アラブとそれぞれの生い立ちを持っていて、唯一の共通点はがんを患っていること。病院で出会った 4 人は…』。最後はハッピー・エンドになるようにという強い思いを込めたんですが、やっぱり、「イスラム国」から迫害を受けて逃げてきたヤジディ教徒のナブラスが亡くなってしまった。最後は、本当に痛がっていて、できたチョコを持っていったら、ぺろって食べてくれた。そして、二つ目も自ら手を出して食べてくれたんです。ありがとうっていう気持ちでした。

去年は、EU をテーマにした。難民が大量にヨーロッパに移住しましたね。

国境線が問題になってきている。「イスラム国」は、(近代国家の) 国境線という概念を否定した。EU が国境を超えた共同体として作られたのに近いのかもしれない。でも、EU そのものが、難民の流入で崩壊しかかっている。ドイツも人道主義を掲げてはいかっこしたけど足元はどうなんだって。イギリスは EU を抜けると決め、アメリカは、トランプが出てきて、「アメリカファースト！」。

たまたま、ヨーロッパに行く仕事があり、その辺を考えさせられた。NGO っていうのは、もっと国境を超えて、世界規模でやらなきゃいけない。がんの支援は特にそうです。メッシが病院を作ろうとしているし。ヨーロッパでもチョコ募金が広まったらいいなど。

そういう状況を見ながら、これから日本をどうするのか考えていかなくては、という時期に来ています。

♡ポップアートとチョコ

今までの日本っていえば、車と電気製品なんですね。ただ品物がいいというだけでなく、中東の人は、広島、長崎に原爆が落とされて、そこから立ち上がり、軍事大国ではなく、大量消費社会でトップであり続けたという尊敬のまなざしで見てくれています。

憲法 9 条が、理想的な平和主義ではなく、軍事費にお金をかけず、経済成長できた実践例だと。でも、それも崩れかけています。実際、彼らは「日本車はすごい、家電もすごい」って言うてはくれるけど、買うのは韓国車だったり、家電も韓国製にもっていかれています。今日本が世界に誇れるものはというと、実は、漫画だったり、ゲームのキャラやゆるキャラだったり、そういうサブカルなんですね。ならば、軍事産業に頼るよりは、そっちで生き残りをかける方がいいんじゃないかと。

1960 年代のポップアートにいろいろ学びながら、今回のチョコのデザインを作りました。みんなが幸せになること＝平和。そんなチョコです。もしアンディ・ウォーホルがいたら、キャンベルスープのように、JIM-NET のチョコで作品を作ってもらいたいです。

♡筑波学院大学地域デザインセンターとのコラボ

昨年からはまった筑波学院大学地域デザインセンターの野田美波子先生、秋廣誠先生とのコラボ。今年は、SUSU の絵が、ハッピーな曲に合わせてダンスするというアニメーションの製作をお願いします。

今回、曲は秋廣先生が作曲、詩は、サイマリ&サトマキの合作。

「チョコレートのお友」

想いが詰まったチョコレート！

あの子の笑顔はじけるよ！

痛い注射も怖くない！

ハッピー ハッピー ハッピー チョコレート！

つなごう命のチョコレート！

かわいい小さなハートのチョコレート！

僕も私もチョコレート！

ハッピー ハッピー ハッピー チョコレート！



【10 歳のがん】

それまでの私は、普通の 10 歳の子どものような人生でした。しかし、それから 1 か月もしないうちに、私の人生は完全に変わってしまいました。私の体調は非常に悪くなり、痛みもひどくなりました。

様々な検査を受け、がんという結果が出ました。そして手術を受け、手術は無事に成功しました。手術で私の体から腫瘍を取り除きましたが、医師の考えと検査結果から化学療法を受けなくてはならなくなりました。

私は自分の運命、未来を知りませんでした。がんとはどういう意味なのかさえも知りませんでした。がんは他の病気と一緒に薬を服用したり、注射をすれば治るものだと思っていました。

病院では毎日たくさんの子どもの患者が、私の目の前で亡くなりました。そしてこれは私に悪影響を及ぼしました。このことは私の人生の中で、最もつらい出来事でした。

化学療法は他の治療と違って、私の容姿と心を完全に壊してしまいました。痛みがあったり、時々食欲がなくなり、免疫が弱くなりました。そして私がもうすぐ死んでしまうのではないかと家族が恐れていました。

さらにつらいことは、人々が私を死が近づいている子どもであると、憐れみの眼で見ることでした。また彼らは、がんは伝染する病気と考えていたため、私に近づこうとはしませんでした。

私は、彼らが私の髪の毛がないことを笑ったり、質問したりしたことを今でも覚えています。そして学校にも行けなくなりました。

しかしながら、これらすべてのことは私を強くしました。自分は

気にしていないし、強いということを見せようと思いました。そして徐々に強さと笑顔を見せるようになりました。

私は治療を終えましたが、がんが再発しました。2010 年にすべての治療を終え、がんに打ち勝ちました。

私は、私よりも強力な病気と闘って勝ったことを誇りに思います。私の体験談や絵が、多くの子どもたちにちょっとした笑顔を与えて、たくさんのがんをやっつけてくれたらいいと思います。

私を優しく支えてくれた医師たち、家族、先生たちと JIM-NET に感謝しています。



JIM-NET ハウスで子どもをあやす SUSU

SUSU

JIM-NET は、こんな支援活動をしています

▶イラク小児がん支援

JIM-NET はイラクにて、小児がん支援を継続して行っており、がん専門病院や貧困患者、国内外の難民に対して医薬品や薬代、必要に応じて検査・治療代を支援しています。

特に昨秋からのモスル解放作戦で、モスルからの患者急増に伴うアルビルの病院の薬不足も深刻でした。本来、医療費も医薬品も無料で提供されるのですが、このような状況下で医薬品が不足し、多くの患者は病院外の薬局で薬を買わなければなりません。が、着の身着のまま逃れてきた人たちは、抗がん剤を買うお金がありません。昨年「イスラム国」(IS) から解放されたガイヤラという地域にいるアブデルモーメン君(11歳)は、現在も月に一度がん治療のためにアルビルの病院を訪れています。「JIM-NET からの薬代の支援がなかったら…、考えただけで恐ろしいわ。JIM-NET の支援があるからこうして治療ができるのよ」とアブデルモーメン君の母親は話します。

モスルの病院の修復も進み、モスル内で治療する子どもたちも増えてきましたが、こちらは、輪をかけて薬が不足しており、3月から JIM-NET が薬を送っています。

また小児がんの治療は、子どもの家族にも大きな負担となります。病院近くに建物(通称: JIM-NET ハウス)を借り、患者家族の相談を受けるなどの社会心理的サービス、経済的なサービスを提供し、ホテルの2部屋を借り上げ、遠方からくる患者家族へ宿泊場所も提供しています。借りている建物が老朽化していること、病院から数百メートルですが、それでも夏の50℃を超える暑さでは通うのも大変です。アルビル保健局が土地を病院の構内に提供してくれることになり、新たな JIM-NET ハウスの建設を目指しています。(斉藤亮平)



新たに建築予定の JIM-NET ハウス

▶緊急支援(ヨルダン)

JIM-NET はヨルダンにて、シリア難民の負傷者・障害者が医療施設に行く際の移送サービスを提供しています。

2011年3月から続くシリア紛争が終わりません。この9月のシリア国内の死亡者は今年もっとも多い3,050人(内955人が一般市民)に上りました。国際社会が政治的な解決のために議論を重ね、一部地域では停戦合意がなされていますが、未だに武力紛争が続いており、隣国ヨルダンのシリア難民も、希望する「帰国」がかなわない状況にあります。

ヨルダンで登録されているシリア難民は、9月時点で約65万人。その15人に1人が戦傷者で、約3割が重度の障害を負っています。

ダラア出身で30歳のマールイクさん(写真中央)がミサイル攻撃で、両足を失い、右手も神経を切断する大けがを負ったのは、たった4か月前です。その時は、普段は封鎖されている国境を超えられ、国境近くの病院にて手術を受けて一命をとりとめました。今は両足大腿部からの義足を作成中です。入院中の病院から外にでることはヨルダン政府により禁じられており、義足の調整に義足製作センターに行く際には、マールイクさんを乗せた移送サービスの車に警察車両がついてきて本人がちゃんと病院に戻ることを確認します。それくらい負傷難民は自由を制限されています。マールイクさんは、シリアに残っている家族、特に2か月前に生まれた娘に早く会いたいとリハビリを頑張っています。彼のような犠牲者がもう出ないように、紛争の終結を願います。(内海旬子)



▶福島支援

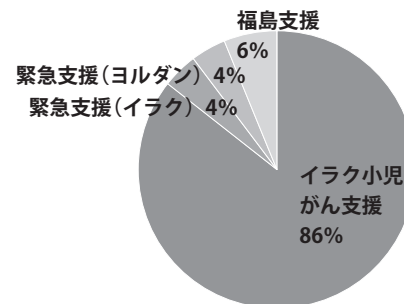
JIM-NET は、福島の人たちを放射能から守る活動を行ってきました。

2011年の震災当時の緊急支援から、現在は、福島の教訓をどう伝えていくのか、福島の人たちと一緒に、日本の未来、世界の未来を作っていく活動へとシフトしてきました。2015年からはチョコ募金の一部で、福島での活動を行っている団体を支援しています。(佐藤真紀)



大熊町を訪問し、町の現状を聞く

昨年度は、チョコ募金より85,798,005円を各事業に充てさせていただきました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。



チョコ募金 2018 イベントカレンダー

会場でチョコ募金ができます!

♥チョコ募金 2018 キックオフ

チャリティートーク&コンサート

「HAPPY チョコレート」

いつもチョコ募金を応援してくださっている演歌歌手の神野美伽さん(写真)。がんで亡くなったイラクの少女・サブリーンの絵をデザインした着物を作り、ステージで歌ってくださいます。

日時: 2017年11月22日(水)

18:30 開場 19:00 開演

出演: 神野美伽(演歌歌手)、湯川れい子(音楽評論家・作詞家)、斉藤とも子(女優)、鎌田實(JIM-NET 代表理事・医師)、佐藤真紀(JIM-NET 事務局長)

会場: 牛込筆筒ホール 都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」A1 出口より徒歩3分、東京メトロ東西線「神楽坂」2番出口より徒歩10分

入場料: 2000円(前売り券) 2500円(当日券) 1000円(小中高生)

※幼児は無料



♥「イラクとシリアの Happy な Art」展

JR 新宿駅東口地下改札からすぐのカフェで、美味しい珈琲、ビール、おつまみを召し上がりながら展覧会をご覧ください。

日時: 2017年11月1日(水) ~ 11月30日(木)

7:00 ~ 23:00 (年中無休)

会場: 新宿 BERG (ベルク) JR 新宿駅東口地下改札から15秒

♥「みんなが幸せになれるチョコ」イラクの子どもたちの絵と写真展(仮)

日時: 2018年2月9日(金) ~ 14日(水)

11:00 ~ 19:00 (最終日は17:00まで)

会場: ギャラリー日比谷 東京メトロ日比谷線「日比谷」A4 出口より徒歩1分、丸ノ内線「銀座」C1 出口より徒歩2分、JR「有楽町」日比谷口より徒歩3分

入場料: 無料

イベントのお問い合わせ・ご予約は

TEL03-6228-0746 info-jim@jim-net.net